

加太小学校だより

令和7年
1月8日
No.20



<http://www.kameyama-mie.jp/kblog/kabuto/>

新年 あけましておめでとうございます

皆様方には、健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。旧年中は、本校の教育活動にご支援、ご協力を賜り誠にありがとうございました。本年も子どもたちの健やかな成長を目指して取組を推進してまいります。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

さて、新しい年、令和7年が始まりました。今年のお正月はお天気にも恵まれ、穏やかな一年の始まりとなりました。そして、本日、久しぶりに子どもたちの元気な声が学校に戻り、3学期の始業式を迎えることができました。3学期は、非常に短いですが、学年のまとめと次の学年の準備、6年生は中学生になるための大切な時期です。しっかりとまとめや次の学年の準備をするためにも、目標や計画を具体的に立て、努力を積み重ねていってほしいと思います。

学校でも子どもたち一人ひとりが一日一日を大切に充実した学校生活を送ることができるよう、全教職員一丸となって取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



こだまでしょうか

この詩は、金子みすゞ童謡集におさめられている「こだまでしょうか」という詩です。「金子みすゞ館」の矢崎節夫館長は、この詩を次のように解説されています。(佼成出版「金子みすゞのこころ」より)

『こだまとは、“丸ごと受け入れる”ことで

す。かつて、私達のまわりにおいてくれた、すてきな大人たちは、こだましてくれる人達でした。ころんで「痛い」といった時、両親は「痛いね」と、私の痛さを丸ごと受け入れてくれて、返してくれました。こだまは、「ヤッホー」といったら「ヤッホー」と半分の大きさになって返ってくるわけですから、「痛いね」と返してくれた時、私の痛さは半分になることができたのです。(後略)』

この解説を読んだとき、言葉の大切さを改めて感じました。喜びは分け合うと倍になり、悲しみは分け合うと半分になります。自分が発する言葉、接し方を変えるだけで考え方や気持ちが変わってきますし、相手の自分に対する目線やかけてくれる言葉も変わってきます。感謝の言葉、相手を尊重する言葉、相手の気持ちを受け止める言葉をかけると、相手も嬉しい気持ちになり、温かい言葉や態度になります。逆に傷つける言葉や否定する言葉を投げかけると、相手は不快に感じ、攻撃的な言葉が返ってくることもあります。言葉は大きな力をもっています。どんな言葉をかけるかで、相手に届く思いが変わってきます。私たち大人も含めて自分が使っている言葉について振り返り、言葉に関する感性を磨いていきたいと思ひます。

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていうと
「ばか」っていうと
「ばか」っていうと
「もう遊ばない」っていうと
「遊ばない」っていうと
「さみしくなって、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていうと
「こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。」
『金子みすゞ童謡全集』より